

題目

「IUE・自己志向他者志向エゴグラム下位尺度の心理的適応機能特性」

著者

西川和夫（岐阜聖徳学園大学）

掲載誌

交流分析研究（日本交流分析学会） 2010年 第35巻第2号 115~127ページ

分類

調査統計研究

問題と目的

IUEは、自我状態の機能的志向性に自己志向と他者志向を仮定した質問紙エゴグラムである。下位尺度には自己志向5尺度と他者志向5尺度が含まれる。IUE下位尺度が測定する心理的機能特性については、先行研究で多面的に検討された。先行研究の結果から、自己志向尺度ではICP（自己志向支配的親）とINP（自己志向養育的親）が、他者志向尺度ではUNP（他者志向養育的親）、およびUA（他者志向成人）、UFC（他者志向自由な子ども）が健康でポジティブな適応機能を反映する下位尺度であることが示唆された。一方、自己志向尺度のIAC（自己志向順応した子ども）と他者志向尺度のUCP（他者志向支配的親）およびUAC（他者志向順応した子ども）は苦痛を招くネガティブな適応機能と関連する下位尺度であることが示された。本研究では、先行研究で用いられた尺度よりさらに心理的適応状態に焦点化した尺度との対応関係を調べることで、先行研究で推定されたIUE下位尺度が表す適応的機能について、詳細な検討を行う。今回対応を求める平行検査としてGHQ精神健康調査票、カリフォルニア人格検査（CPI）の幸福感尺度（Wb）、およびRyffの心理的Well-being尺度（RWb）を採用した。調査1において、GHQ下位尺度との相関的対応を求め、症状形成的な不適応的側面に関してIUEが測定する心理的機能を分析する。調査2では、Wb尺度との相関を基に幸福感の高い健康な適応に関して、IUE下位尺度の機能特性を分析する。調査3では調査2の結果を参照した上で、PWb下位尺度との相関的対応を調べ、IUE下位尺度の健康な適応的心理機能の詳細を分析する。

方法

＜調査対象者＞（1）調査1：大学生237名（男122名、平均年齢19.59歳、女115名、平均年齢19.74歳）。（2）調査2：大学生257名（男132名、平均年齢19.61歳、女125名、平均年齢19.75歳）。（3）調査3：大学生140名（男70名、平均年齢19.87歳、女70名、平均年齢19.63歳）。

＜測定尺度＞（1）調査1：IUE10下位尺度80項目（「あてはまる」から「あてはまらない」までの3件法による回答）、GHQ6下位尺度30項目（「まったくなかった」「たびたびあった」などの4肢選択による回答）。（2）調査2：IUE80項目、Wb1下位尺度44項目（「だいたいあてはまる」から「あまりあてはまらない」までの3件法による回答）。（3）調査3：IUE80項目、PWb6下位尺度43項目（「だいたいあてはまる」から「あまりあてはまらない」までの3件法による回答）。

＜統計手続き＞調査1から調査3まですべて、IUE 下位尺度得点と対応する平行検査の下位尺度得点との相関を求めた。また IUE 下位尺度と平行検査下位尺度を併せた直交共通因子を求めた。

結果

＜調査1＞ 自己志向尺度では、INP はすべての GHQ 下位尺度と、特に「希死念慮うつ傾向」や「不安と気分変調」と高い負の相関を示した。対照的に IAC はすべての GHQ 下位尺度と正の相関を示し、特に「不安と気分変調」と最も高く、また「希死念慮うつ傾向」および「睡眠障害」とも高く相関した。IFC と「身体的症状」および「不安と気分変調」の間に弱い有意な相関が見られた。共通因子分析の結果、第1因子にはすべての GHQ 下位尺度と INP に負の、IAC に正の高い負荷量が見られた。INP は対抗的な関係で、IAC は親和的な関係で GHQ が測る精神身体症状的健康度と機能的共有性が高いことが示唆された。第2因子と第3因子には IUE の下位尺度のみが高く負荷した。第2因子は何らかの肯定的意識化に関する成分が、第3因子は内向的で不安定な成分が示唆された。他者志向尺度と GHQ 尺度の相関的対応は、自己志向尺度に比較して相対的に低かった。部分的な対応ではあるが、UCP は不適応な状態と正に関連し、UFC は適応的な状態と関連することがうかがえた。共通第1因子にはすべての GHQ 下位尺度に正の高い負荷量、UCP にやや低い正の負荷量、UFC に低い負の負荷量が見られた。UCP は不適応な機能を反映し UFC は適応的な機能を反映する尺度特性を持つことがうかがえる。第2因子と第3因子には IUE 尺度のみが高い負荷を示した。UCP、UNP、UA、UFC の第2因子への負荷から、これら4つの下位尺度は積極的に外界・他者に対処する機能を共通成分に持つことが示唆された。第3因子には UNP と UAC の正の負荷量、UCP と UFC に負の負荷量があり、順応的で他者配慮的な心性に関わる機能がうかがえた。

＜調査2＞ Wb との相関関係を見ると、幸福で健康な適応状態と正に関連する自己志向尺度は INP が高く次いで ICP であった。IAC は強い負の関係にあり、IFC も幸福で健康な心理とはネガティブな関連性を示した。他者志向尺度と Wb の相関は自己志向尺度に比べて低かった。UNP と UFC は弱いながら幸福で健康な心理状態と結びつき、UCP は幸福感を減じるように機能することが示唆された。

＜調査3＞ 自己志向尺度と PWb 尺度の相関関係は、全般的に ICP と INP が PWb が測る「人生全般に渡るポジティブな心理機能」の多様な次元とポジティブな関係を持ち、IAC はネガティブな対応関係にあることを示した。共通因子分析の第1因子には「他者関係」を除きすべての PWb 下位尺度に高い負荷が見られた。自己志向尺度の ICP が高く負荷し INP と IA もやや高く負荷していた。人生の望ましい目標に向かって積極的に自己実現を図るという機能がこれらの下位尺度に含まれることがうかがえる。第2因子には PWb の「人生目的」「自己受容」「他者関係」の負荷が高く、INP と IAC もそれぞれ正および負に高く負荷した。INP に代表されるような人生における積極的な意味の感覚や、自己の良い面悪い面を含めて自己を積極的に受け入れる感覚、他者と温かく信頼できる関係を築いているという感覚が共有されていることを示す。IAC は対照的にネガティブな特性を示した。第3因子には IA、IFC、IAC が高い負荷を示し PWb

下位尺度では「自律性」のみが負に高く負荷した。自己決定的な自律性とは逆の、自己内に意識が向かう流動的で主観的な意識の志向性が現れたと推測される。IUE と PWb の下位尺度間相関パターンは、UNP、UA、UFC が全般的に充実した幸福な状態をもたらす健康な心理的機能と正に関連し、UAC は負に関連することを示した。とりわけ UA は「自律性」および「環境制御」と顕著な関連を示した。両尺度を合併した共通因子分析の結果は、第1因子において UA と「他者関係」を除くすべての PWb 下位尺が高い負荷を有した。UA の合理的な外界対処機能が目的と方向性の感覚を持ち、自律的自己決定的であり有効な環境制御に機能することが示唆された。第2因子には UNP、UFC と PWb の「人生目的」、「自己受容」、「他者関係」が高い正の負荷量を示した。これらは自己目的志向的で自己受容的、他者との信頼関係形成という機能が共有されることを示している。第3因子では UNP と UAC が正の負荷量を、「自律性」と「自己受容」が負の負荷量を示した。UNP と UAC はともに他者に配慮する意識を内包しており、独立的な自己決定と自己受容の感覚とは対照的な機能性を持つと考えられた。第4因子には UCP と UFC の負荷のみが見られ、抑制のない主張的機能を示す因子になっていた。

まとめ

< ICP > GHQ の下位尺度と有意な関連を示さなかったが、Wb および 5 つの PWb 下位尺度とは正の関連を示し、健康に機能する状態を表していた。

< INP > すべての GHQ 下位尺度と有意な負の関連を示した。対照的に Wb および 5 つの PWb 下位尺度と正に関連し、心身症状に拮抗的・予防的に機能する安定した健康な適応機能を示した。

< IA > GHQ および Wb とは関連しなかったが、2 つの PWb 下位尺度と低い正の関連を示した。どちらかといえば適応的機能を反映する傾向を示した。

< IFC > 2 つの GHQ 下位尺度と低い正の関連を示し、Wb および 1 つの PWb 下位尺度と低い負の関連を示した。弱いながらネガティブな適応機能を表す傾向が見られた。

< IAC > すべての GHQ 下位尺度と正の関連を示し、Wb および 5 つの PWb 下位尺度と負の関連を示した。心身症状形成的で不安定不適応な機能を表していた。

< UCP > 4 つの GHQ 下位尺度と正に関連し、Wb と負に関連した。症状形成的でネガティブな適応機能を測る傾向を示した。

< UNP > 1 つの GHQ 下位尺度と負の、Wb および 4 つの PWb 下位尺度と正の関連を示し、INP よりは弱いながら、健康な適応的機能を測る尺度となっていた。

< UA > GHQ および Wb とは有意な関連を示さなかった。PWb とは 5 つの下位尺度で正の関連が見られ、症状対抗的とは言えないが、健康な心理的機能を反映する傾向を示した。

< UFC > 5 つの GHQ 下位尺度と低い負の関連を示し、Wb および 4 つの PWb 下位尺度と低い正の関連を示した。心身症状に拮抗的に機能する健康な適応機能を表す傾向が見られた。

< UAC > 1 つの GHQ 下位尺度と正に関連し 2 つの PWb 下位尺度と負に関連した。ネガティブな適応的機能を反映する傾向を示した。

< 全般的傾向 > IUE の自己志向尺度の方が他者志向尺度より全般的に身体的精神的自覚症状

(GHQ)、全般的幸福感 (Wb) および人生を充実させる健康な心理機能 (PWb) と正または負に高く関連していた。先行研究の結果と照合すると、精神的健康度を測定する尺度として自己志向尺度の INP と IAC の感度が最も高いと言える。自己に対して養育的ケアを行う自我状態の機能と、自己を無力な子どもの状態に止める自我状態の機能が、最も強く精神的健康に影響すると考えられた。

(要約者：西川和夫)